

『モンスターハンターア
ナザーストーリー』RTA
称号 《真のハンター》
ルート

ゴア・マガラの苗床

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

注意：これは完全なる二次創作です。

先駆者兄貴姉貴がいないので私が最速なRTA、はーじまーるよー！

なお、これは処女作なので、沸かしてから4時間ほどのお風呂のような生暖かぁいい目で見てね！（ねっとり）

後、超確率で失踪します。（断言）

それでも良ければ、どうぞー。

目次

さつそくの盛大なガバ&屑運	—	1
いよいよハンターに…?	—	8
何かガノトトス亜種が原種の背中に苔が生えたように見えるの俺だけ?	—	13
1ゝ3 話冒頭 マゼンタⅡサン視点		
20		

さつそくの盛大なガバ&屑運

一介の農民がG級ハンターを目指して行くRTA、はっじまつるよー！

はい、みなさんオハコンバンチワーつす。 どうも、【超】新人走者の「ドスメラルー」と申します。 以後お見知り置きを。

という訳で今回は、「自由度が高杉」や「コンナハズジャナイノニイ」で有名な『モンスターハンターアナザーストーリー』というゲームに挑戦していききたいと思います。

このゲームにはエンディングが1000以上あり、それぞれのエンディングの回収率が100%になると完全クリア、という物ですが、あまりにも理不尽過ぎて、たくさんのプレーヤーが本当に心から折れてしまったのではないのでしょうか。 そんなゲームを今回はやっていきます。

何故か先駆者兄貴姉貴がいないので、私が世界最速だ（暴論）

本RTAでは、始めるを押すと同時にタイマースタート、称号《真のハンター》の取得した瞬間をタイマーストップとします。

ということで、スタートしていききたいと思います。

はい、よいスタート（棒）

という訳でまずはキャラクリですね。

ここで重要なのは《名前》と《性別》、《ステータス》ですね。名前は、つけ方によって何処の地方の出身かが決まり易くなります。とはいってもあくまで決まり「易くなるだけなので、出ないときはリセットです。(2525敗) 続いて性別ですが、男なら筋力やスタミナなどに補正が付きまゝ。女なら器用さや、後に説明するスキルの取得にも関わって来ます。今回は女で行こうと思います。最後にステータスですが、これは最初に割り振る能力値のことです。最初に15P貰えて、それぞれの能力値に振ることが出来ます。項目は、筋力・スタミナ 器用・知識・精神・魅力・幸運 の7つです。スキルに関しては防具スキルではなく、生活スキルみたいな感じですね。

そんな訳で今回は女を…… あ……… ああああああああ?!?! 早速ガバったあ! やってしまつた…… ボタン連打してたら男にしてしまつた……… けどもういいか! (ヤケクソ)

はい、このまま続行デース☆(某艦娘風)
皆はボタン連打したらダメだよ? (威圧)

次は名前ですが、今回はユクモの辺りからスタートしたいので、「掘島 基義(ほりしまもとよし)」という和風な名前で行きます。いちいちもとよし君と呼ぶのも面倒なので、ほも君と呼ばせて頂きます。

ではこれでキャラクリを終えてゲームスタート！

ここ、オープンング飛ばせないんですよねー。短いから良いんですが。ステータスはオープンングで人物が判明するので、ここでいいキャラが出なければリセットです。では、オープンングをどうぞー。

ボクは堀島 基義、9歳の農民で、父と母、妹の四人暮らしだ。ここら辺はユクモ地方の村、アmano村だ。将来の夢？まあ、叶わないとは分かっているけどハンターになることかな。

な？短いだろう？（自慢）

今回はかなり運が良いです。何故かというと、一つはユクモ地方出身。更にハンター志望、そしてまだ9歳だということ。ひどい時は47歳の隻腕で隻眼の両足義足＋持病があつて独り身でデブニートなおっさんが仕方なくハンターになると言う設定でぶちギレました。

まあそんな昔（三日前）の事は置いて、これからする事を説明します。ほも君が普通に過ごしていると、中格率でハンターが村に滞在しています。更に、低格率で村へのモンスターの襲撃があり、そこで戦うハンターを見ると、よりハンターへの憧れ

が強くなります。そのまま16〜8歳位になると村を出る事を許可され、ハンターになることが出来ます。ハンターになったらHR をパパパッと上げて、終わり！ なんです、年齢が高いとすぐにハンターになってしまうためあまりステータスや生活スキルを取得出来ないんですね。というわけでここからはも君の育成がはじまつるよー！

まずは能力値のレベルアップや、スキルの取得を優先します。 かも君の初期スキルは【鍛術Ⅲ】と【釣りⅡ】、【世話Ⅱ】ですね。 【世話Ⅱ】…？ あ、きつと妹の世話ですね。 まあとりあえず朝起きたら初期の15pを筋力に3、スタミナに5 器用に3、知識に1、精神に1、魅力に1、幸運に1を降ります。元のステータスと合わせる、筋力10、スタミナに14、器用に13、知識に8、精神に6、魅力に13、幸運に6となります。 降り終わると…

「もとあき〜？朝ごはんよ〜」

さっそく来ました。 朝ごはんイベントです。

このイベントですが、当然食ベに行きます。 食ベないを選択しても「なに言ってるの、ユクモの朝は朝食から始まるって言うじゃない。 ほら、食ベなさい」と謎のことわざを聞かされ、結局食ベる事になるため、時間の無駄です。

「いただきますーす」

「はーい、召し上がれー」

そうして朝食を食べ終わつたほも君。すると母から

「あ、そういえば三日程前にハンターさんが来てたわね。後で会いに行つてみたら？」

お、ラツキーですね。大抵始まつてから3ヶ月ほどしないと来ないんですが……まあともかくいつてきますを言つて家を出ます。家を出ると全速でハンターさんのいる

家に突撃します。着いたらドアをノックして、来ているハンターさんに武勇伝や色々な話を聞きます。これでハンターになりたいと言つて村を出れるようになるという

大事なフラグです。こゝこゝに来るまでにスタミナが7割ほど削れましたがヘーキヘーキ。(他人事) ハンターさんに話を聞いている間にスタミナは回復するから。ちなみに村に来ているハンターさんもランダムなので、ここもリセットポイントですね。

(1919敗)

コンコンコン

「はーい」ガチャ

おつ！今回はラツキーですね。今日の前に居るのはマゼンタさんと言つて、赤い髪の特徴的な気のいい大剣の遣い手な女性ハンターさんだ。(某説明おじさん風) 後で屑運が発動しないか心配ですが、素直に喜びましょう。取り敢えずは「お姉さんのハンターのお話を聞かせて！」と伝えます。すると「良いよ、取り敢えず中にお上がり」と

言われたので、遠慮無くずこずこ侵入します。 お邪魔するわねー。 上がるとちやぶ台を挟んで座り、緑茶を出されます。 「ありがとうございます」と感謝を伝えて飲みます。 ぷはー、今日も良いペンキ☆ ここからはお姉さんのお話をボタン連打で進めて行きます。(懲りない)

その間はさぞかし暇でしょうから、皆さんのためにこんな動画をー：： つと、もう終わりましたね。 「ありがとうお姉さん、お邪魔しましたー」と言つてそとに出ようとしたらマゼンタさんに話しかけられました。 なんでしょうか？

「おう！また明日な！旅の支度しとけよー！」

：：：：：：：： ふあつ？ (思考停止)

：：：： いやいやいやいや、待つて下さい？どうなってるんですか？ (ログガン見)
：： はい、というわけでログを見た所、

おねーさんのお話をオメメキラキラさせながら聞いていたほも君。

← ハンターに興味があるか聞かれる

←

ボタンガチャガチャしてて「はい」を押す

←

ならば私が弟子にしてやろうという

←

もう帰る時間になって、別れる↑イマココ

またか：：（自業自得）くそう、次からはちゃんと：：え？ちよつと待つて下さい

？どうなってるんですか？アイエエ!? ナンデ!? w i k i ノツテナイナンデ!? : : ど

うやら未開拓ルートに進んでしまったようですね：：

といった所で今回はここまで！ 次回は謎のオリチャー開始からです。また見て

ね。

いよいよハンターに... ?

どうも、皆さん。ドスメラルーです。

前回、謎のオリチャー（前例ナシ）が発動してしまった所からスタートです。

「うん、またねー」と言いつつ手を振って走り去ります。不味いですよお... リセットは... いや、どうせ私しか走者が居ないんです。このまま進めてしまえ！（おめめグルグル）ちなみにお昼はハンターさんと食べました。

帰りはランニング程の速度で走ります。そして家に着くと真っ先に母に報告。

お母さん、ハンターさんと世界を見て周りたい！と言うと、当然のように「なに言ってるの、あんたが行っても足手まといになるだけよ」と言って相手にしてくれません... どうしましょうか... はっ！閃いた！

こっそり行けば良いんだ！（高飛び）

そんな事を考えながら夕方まで過ごし（スキップし）て、晩ごはんの時間になりました。父が帰ってくると母が父に相談し始めた。当然のように父も「はっはっはー、あいつにそんな事無理だろ。」と言い、そのまま晩ごはんの時間になった。

すると、不意に家の戸がコンコンコンと叩かれ、母が「はい、今向かいますねー」と

言つてドアを開けると、そこにはマゼンタさんが。母は当然驚いて「はつ、はいい！」と顔を青ざめさせてマゼンタさんと話をしている。まあ家に突然大剣担いだ人が来たら誰でもビビるでしょうね。すると「も、もとよし？　ちよつとこつち来て？」と言われ、玄関に行くのと、マゼンタさんに、

「おい、もとよし。お前は本当にハンターになりたいのか？　一回なつたらもう戻れないぞ？」

と言われますが、当然それでもいいと言います。すると、マゼンタさんはニツとニヒルな笑みを浮かべて、「分かった。明日の朝は準備が出来たらすぐに来いよ、アタシがハンターの基礎を全部叩き込んでやる！」と言いながら帰ろうとして、戻つて来ると、「なあ、お前の好きな武器は何だ？」と聞かれ、よくゲームで使つていた武器である弓を選択すると、「おし、わかつた！　じゃあまた明日なー！」と言いながら去つて行つた。

凄く元気な人だなと思いつつ振り向くと下を向いている母がいて……えっ？　なんで？　不思議に思いながらもどうしたのと聞くと、

「本当にハンターになりたいのね……よく分かつたわ。お父さんと百合子（ゆりこ）には言つて置くわ。でも……必ず帰つてくるのよ？」

と、母が半泣きになつてしまいましたが、許可を貰えたのでヨシッ！（下衆の極み）その日の夜に、カラカラとドアを開ける音がして起きると、そこには百合子さん（以

後ゆりちゃんとする」が顔を真つ青にしながら寝巻きでこっちに來た。

「ねえ、兄さんはハンターになるの？」

勿論そうだと答えます。ここで「違う」とか言うとなんか拗れそうなので素直に答

えます。すると「そう...」とだけ言うのと、目を涙で潤ませながら「...今夜は一緒に

いさせて...」と言われますが、自分の部屋で寝ろと言います。その方が速そうだから。

これはRTAだからね！（人間の屑）すると「.....」と、うつむきながら

無言で帰って行きました。え、なんか怖いんやけど。さ、ワイも寝よ。（豹変）

うーん、明日どうなんのやろ。そのまま寝ます。

次の日の朝になった。おら！起きろ！（ボタンガチャガチャ）

？体がだるい...なんかスタミナが3割程削れてるんですが...ま、いつか。（適

当）そのまま降りて朝食を食べてから行こうとして階段を下りると、そこには半泣きの

家族（3人）がいた。そして俺が話しかけると、父が「お前がハンターになるなんて

な...」と目を真つ赤に腫らしてハグされて、「頑張つて来いよ」との激励を貰います。

すると母からも、「絶対帰つて来なさいよ」と言われ、そのまま朝ごはんを食べて、い

ざ行こうとすると、ゆりちゃんが、「えへへ、兄さん。楽しみにしておいて下さいね！」

と言われましたが...はて、なんの事やら。とりあえず返事を...（ボタンカ

チツ）.....まただよ...ちよつとガバ多すぎんよ...選んだのは?...「返事をし

ながら頭を撫でてハグする」でした。（綾鷹感）　：　うつわー、キツモ。　ま、どうせもう帰って来ないしいつか。（最低野郎）

そのままいってきますを言って家を出ると、3人が手を振りながら「行ってらっしゃーい」といつてらっしゃるので（激うまギャグ）手を振り返：（お手々ツルンッ）「もとよしは振り返らずにハンターの元に急いだ。」：チャートが：私の大切なチャート：壊れちゃった（半泣き）何でこんなにガバ多いんですかねえ。もう止めたくなりますよお。（小並感）

そのまま走る事少し。遠目にマゼンタさんの家が見えてきた：すると、ガチャリと言う音と共にマゼンタさんが出てきたのが見える。あの髪色凄く目立つからね。なので「手を振って名前を呼ぶ」します。まあ当然

「おーう、ちゃんと用意は出来たか？」

と聞かれたので「勿論」を選択。　：　すると同時に手元で？ピロリイーン（不協和音）／と鳴ったので目線だけで確認。

スキル：【スタミナ強化Ⅰ】を獲得。

称号：【孤高の戦士の1番弟子】を獲得。

称号：【孤高の戦士のお気に入り】を獲得。

おお！このスキルは非常に強化です。スタミナの消費量の軽減がまたとてもなく
ありがたいんですね。で、称号は：：ほーん、2つとも新しい称号ですね。（wiki
iガン見）でも“お気に入り”ってなに？：：ま、ええわ。（他人事）そのまま馬
車に駆け込みます。マゼンタさんが「行くぞー」と言って馬車が動き出してから少
すると、おもむろに酒を取り出し急に呑みはじめたのだ。突然の行動にびっくりさ
しながらもボタンをカチカチ（脳死）していると突然コップを渡され、

「覚悟は良いな？ 新たなハンターの出世を願って、カンパーイ」

とか言いながら酒を注いで来たのだ。そうなれば当然「飲む」と「飲まない」の選
択肢が出るわけですが：：どうしましょうか。「飲む」とマゼンタさんに酔って変な
ことしそうですし、「飲まない」と「わらしの酒が呑めないるかあ」とかめんどくさそ
うなんですよね：：と言った所で今回はここまで。次回もまた見てヒヤシンス！

何かガノトトス亜種が原種の背中に苔が生えたように見えるの俺だけ？

むむむ… 酒を押し付けられながらこんにちは。 ドスメラルーです。 今回は、前

回マゼンタさんに酒をすすめられた所からスタートです。 私の脳内会議の結果、「え

えい！ ままよ！」する事になりました。 さつそく飲むを選択。

「よしよし！ ギョーと行け！」

そのままコップを傾けるほも君。 … やべえ、操作がきかねえよ… もしかして飲

んだの間違いだった… あ、画面が暗転しましたね。 アルコール中毒でしょうか。

… まあ良かった、最悪のケースは避けられた。 ん？ 最悪のケースはどんなのか

？ それが知りたければR-18版を買うんだな。 そして君自身の目で確かめろ！

(ゲームのCM感)

すると、また？ピロリイーン (不協和音) / が聞こえたので確認すると、

スキル：【アルコール耐性Ⅱ】を獲得

スキル：【肝臓強化Ⅰ】を獲得

称号：「初めての飲酒」を獲得

： あのだ、ほも君？ 酒への適応力だけ高すぎませんか？ なんだかねセトの乗り耐性の上昇値みたいだなあ（すつとぼけ）

： と、起きた見たいですね。 もう夕方ですが、涙目のマゼンタさんが凄いい剣幕で謝ってきます。 かわいいですが、とりあえず「許す」を選び、会話を続けていると夜になり、夜営の準備に入ります。 手伝わたら速く終わりそうなので、マゼンタさんに話しかけると、

「お、手伝ってくれんのか、サンキューー！」

と出ます。 ここからはミニゲーム見たいな感じでテントの組み立てとか火起こしをしますが、普通のハンター√でもやることになるので、内容は全把握済みです。 まずはテントのテグ打ちですが、近くの木を探してよじ登ります。 マゼンタさんが

「おいっ!? 何してるんだ、戻ってこい！」

とか言ってますが無視無視。（冷酷） 借りたハンマーを手に、木から飛び降り、空中でグルグル回り、作用しているエネルギー的なのをハンマーの先に集めて、テグにぶち当てる瞬間に手を離します。 するとゴギイイイーンとか言う爆音と共に、ふわっ（謎の浮遊感）とするので、滞空時間を利用して体制を整え、着地と同時に別のテ

グに近い木を探してよじ登り、これを計4回します。 たったそれだけです。（ハイライイトオフ）慣れれば何て事ないですよ。（47000回より多い敗）続いては火起こしを行います。

まずは板を置いて、棒でグリグリ… せずにマゼンタさんに大剣を借ります。 マゼンタさんは、確率でランダムな属性をランダム本持つてくるので、13本の無属性大剣を持つて来た時はマゼンタさんに飛びかかりました。 今回は水2、火1、毒1ですね。 さつそく火属性大剣を借りようと思いますが、

「え、あ… うーん」

と言われます。 … まさかりセ案件ですか？ あ、何故かというと、物を借りようとしたとき、信頼が高い順に、

ヤンデレ（狂愛）「ああ、お前になら全部捧げるさ。 だから見捨てないで… お願いだ… ああ、お前に捨てられたらブツブツ…。」

ラブラブ（大好き）「え？ あはは！ そんなの気にしなくても自由に借りて良いぜ。」
友人（好き）「全く、しょうがないな… ほれ、貸してやるよ。」

知人（普通）「ん？ ああ、良いが変なことするなよ？」

少し嫌い（苦手）「え、あ… うーん」

大嫌い（憎悪）「チツ… 誰がテメエ何かに貸すかよ。」

… おお… ？ あ、でも普通に借りることは出来るん… ま、ちよつと借りて行

きますねー。そしたら木材の端の方を火属性の剣に添えて、ノコギリみたいにギコギコします。返しがないので当然木材は削れませんが、火属性の武器で切ると切り口から燃えるので、それを利用しています。

パパつと（火を）つけて、終わりッ！

借りた剣はもとの場所に戻します。そして、最近発見されたらしいんですが、キャンプ時に半径2km以内に水場が必ず形成されるらしく、そこで魚が釣れます。しかし釣竿なんぞ持っている筈もございません。実は、池では網で一氣に捕まえた方が楽なんです。感の良い（ホモ）ガキの皆さんは気付いたかもしれませんが、捕獲クエに必須の罟を作るのに必要なネットを作りたいのですが、これは近くに蜘蛛の巣とツタの葉がないと使えないのでマゼンタさんに話しかけ、「近くを探索して、蜘蛛の巣かツタの葉を見かけたら採つといて下さい」と入力すると、「あ、ああ。分かったよ……あ、それならこれを。」と言い、私に……恐らく剥ぎ取り用のナイフを渡しながら森へ歩いて行きます。自分も森に走り出します。目的は手頃な木材の確保（焚き火用）と、さつきも言ったように、蜘蛛の巣とツタの葉の入手です。ですが、普通に走り回っても録になんも見つからないし、何なら乱入モンスターに会うかもしれない。しかしこのゲームは、物理演算が他のVRMMO系ゲームに比べて甘いんですよ。まずは手頃な枝に手を掛け、オリンピックの鉄棒宜しくグルグル回ります。エネルギーを最大限に利

用しながら前へすつ飛び、次の木の枝にも同じように、まるで猿のようにするする移動します。ちなみに言うのと、現在173km/hですので、手が滑ると簡単にガメオベラになります。つとお！ 先ずはツタの葉、ゲットです。え？何が起こったか？

視界の端に映ったツタの葉を掴んで通りすぎただけです。実に簡単。失敗すると、

突然森の中でパアンという軽快な破裂音と共に大きい人間ザクロが弾け飛ぶでしょう。

(810810敗) そのまま勢いを殺さずに、枝を離す手を一瞬遅くします。すると

少し上に飛ぶので、あしに枝を引っかけ、華麗なUターンをキめ、今まで来た道を戻ります。・・・と、その時、遠くから

「ぎやああああああ!!」

と(おそらく)マゼンタさんの悲鳴が聞こえて来ます。もちろんスピードは緩めず

に変態挙動でぐつと曲がり、森の中を駆け抜けます。(駆けてないけど) これは襲撃イ

ベントで、キャンプ中にキャンプ地から250m以上離れると低確率でモンスターに遭

遇するというもので、更に遭遇するモンスターも確率です。今回は剥ぎ取り用のナイ

フを借りているので、これを犠牲にモンスターを殺しに行きます。攻撃の速度が高け

れば高い程、比例するように威力も高まります。後、ナイフを犠牲にするというのは、

剥ぎ取り用のナイフは相手が死んでいない状態で攻撃すると、一回の攻撃で粉々になる

ためです。・・・ですが、この剥ぎ取り用のナイフは何と直撃時の、速度×15ダメージ

ジとか言うぶつ壊れ計算式となつてていのですが、どんだけ頑張つても1800辺りが限界なんです。　が、更に相手の肉質関係なく切れて、挙げ句の果てにはダメージ計算時の相手側防御25%低下までつきます。　これは一撃で壊れるのにも納得です。
 ……　そろそろほも君のスタミナが2割を切りますね…　不味いですよお！　くっそ、まじでいねえ…　お、見付けた！　いやー、あそこにいも!!（流れるようなゲーム一時停止）　……　は？　いやいやいや、あんなおかしいやん。　何でこんなところにママトロス居るの？（ガバ運）　…　まじかー、どうしよう…　序盤で出たら即リセ何ですが…　あ、ちなみに出現率こんななんです。

ドスランポス　36%

ブルファンゴ　29%

ババコンガ　11%

ガノトロス　9%

キリン　7%

イビルジョー　6%

ラージャン　2%

そして、上記の確率確定後に、更に原種、亜種、希少種の中からどの個体かが決まります。　確率は下記です。

原種 89%

亜種（存在している場合） 7%

希少種（存在している場合） 4%

ちなみに、例として亜種が無い場合はその7%は原種に吸われます。なので、

原種 96%

希少種 4%

となります。希少種が無いときも原種に吸われます。更に、ゴーヤとかゴリラ

は、怒り喰らってたり、激昂してないかの判定までありますが長くなるのでカット。

そして、何故かガノトトス亜種の時だけ、

ノーマル 99.9%

ママトトス 0.05%

子トトス 0.05%

になります。まあ、結論を言うと、「何でやつとチャート組んで初めての放送で即ガバによる新√の解放だけでしんどいのにここから更に屑運で苦戦しなきゃいけないの？」ってな訳です。はい（やけくそ）、今回はここまでとなっております。次回はここからどうするか、おたのしみにー！

…もう、本当に、コンナハズジャナイノニイ!!（半狂乱）

1～3話冒頭 マゼンタⅡサン視点

アタシがその村に行ったのは、ただの依頼だった。その依頼が、「村の付近にドスファンゴの率いる群れがあり、既に被害者も出ているため、迅速に倒して欲しい。」というもので、報酬額はそこまでだったものの、何と言つてもユクモ地方は温泉が豊富だったからつい依頼を受けちゃったんだよな…

んでそのその依頼もすぐに終わって、後はしばらくゆつたりと温泉なんかを楽しんで帰るだけだったんだ。

そしてやることもなく家でのんびりしていると、コンコン とドアの叩かれる音。なにかと思つてドアを開けると、そこには

「カヒュツ… カヒュツ… オッネエ… ザ… ン…」

今にも倒れそうな程疲れている男の子の姿があつた。少し戸惑つてしまつたが、とりあえず「ど、どうしたんだ？」と聞いてみる。すると、1分もしないうちに「あ、いや… お姉さんのお話聞きたいなつて…」と、普通ならありえない回復速度で息切れが回復。…ん？ ま、まあこのまま外に立たせたまま話するのもあれなので、「良いよ、取り敢えず中にお上がり」と言つて招く事にした。その少年をとりあえず座らせ

て、お茶を出してから、待っててねと少年に言いつつ意外な来客に少々驚きながらもお菓子の準備をしていると、少年のいた部屋から

「ぷはー、今日も良いペンキ☆」

という謎の言葉が聞こえて来た。　…ペンキ？　まあ良く分からないがクツキーを持つていく。　そしてその少年…いや、基義といったか。　基義は私の話を少し前のめりになって目をキラキラさせながら聞いている。　そんな時にふと思ひ出した。　ここに来たときの基義の能力を考えれば、ハンターになれるのではないかと。　実際に基義の体を少し見つめてみると、しつかりと作り込まれた筋肉がうっすら服から透けて見えた。　少しエロいと思ったのはナイショだ。

…え？　このむつつりさん？　ちよつと、言い掛かりはやめてよ！

まあ、ともかく私は基義にハンターになってみないかを聞いてみると、二つ返事でなりたいと言ってくれた。　私もこういった形で弟子をとってみたかったので、案外うれしかったりする。　しかし、その日の夕方になって、あんまりにもいけてそうだったので誘ってはしたものの、よく英雄譚なんかで書かれているハンターになることが出来るのは、本当に一握りの、運と実力を兼ね備えた人しか出来ないのだ。　例えばどんなに実力があっても、運がなければあっさりと死ぬ。　例えばどんなに運があつたとしても、実力が伴わなければこれも同じ。　要は物語の主人公でもない限りは一人で古竜討伐なん

てできないってこった。もしもハンターではなく、物語の英雄に憧れの焦点が向いているのならばすぐにでもやめさせようとした。しかし、彼の家へ行ってみるとそんな心配は杞憂だったみたいで、しつかりとした思想を持っていた。これからどんな風に育ててやろうかと楽しみにしながらその日は眠りについた。決して楽しみで寝れないなんて子供みたいな事は一切なかった。

次の日、朝早く起きて出発の準備を整える。持ち物は自分が家から持っていきたいものだけ持つてくれればいいと言ったが、基義は特に何も持つてこなかった。

そのまま馬車に乗って出発。走り始めてから数十分ほどどんなクエストに臨んだとか話していたが、失敗なんかも話しているうちに恥ずかしくなってしまう、酒をあおるあおることにした。そこから記憶が曖昧だったが、ふと起きると目の前（酒で）顔がほのかに赤いく、（密着してたから）しつとりと汗をかきながら（マゼンタさんの寝相のせいで）服のはだけた基義がいた。

……
もうお嫁にいけないよ……